

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年 大阪府版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010oskv1.4

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊中市上新田マンション北詰	階数	地下1F地上14F
建設地	豊中市上新田2丁目3207番、3208番	構造	RC造
用途地域	第1種住居専用地域、法22条地域、	平均居住人員	270 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2015年3月5日
敷地面積	2,817 m ²	作成者	株式会社都市建山本
建築面積	1,234 m ²	確認日	2015年3月6日
延床面積	6,765 m ²	確認者	株式会社都市建鷺田

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 71%
④上記+ 71%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	第二種高度地区および日影に対する規制を遵守し、周辺のまちなみを阻害することなく景観調和に努めた。また当該敷地が景観形成協定区域内に位置し、敷地は可能な限り緑地を確保する事と建物の意匠性によって、周辺環境の保全につながる景観形成を実現する。	
その他	0	
Q1 室内環境	開口部は複層ガラスを採用。界床遮音は軽量衝撃音をLH-45・重量衝撃音をLH-50とし遮音性に配慮する。化学汚染物質を含まない建築材料を積極的に採用、また換気量の十分な確保により空気環境の向上に努める。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	各住戸においてブロードバンドが利用可能な環境を整備し機能性の向上に努める。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	適正な駐車台数を確保し、地域インフラへの負荷抑制に努める。敷地内での緑地確保に努める。建物・敷地の植栽条件に応じた適切な緑地づくりに努める。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	屋根において外断熱工法を採用し建物の熱負荷抑制に努める。窓部において省エネルギー性の高い複層ガラスを採用する。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	節湯型水栓及び節水型便器の採用により水資源保護に努める。汚染物質含有材料の使用回避に努める。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	敷地・道路境界線は可能な限り緑地を確保する事と建物の意匠性によって、周辺環境の保全につながる景観形成を実現する。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

【建物概要】	建物名称	(仮称)豊中市上新田マンション北計画		
	建設地	豊中市上新田二丁目3207番、3208番		
	用途/区分	集合住宅		
【評価結果】	CASBEE 総合評価			A
	CO2削減			4
	省エネ対策			4
	みどり・ヒート アイランド対策			3
	エネルギー消費量の報告			対象外

【評価項目】

省エネルギー対策		① CO2削減			
		② 省エネ対策			
	項目	評価内容	スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価		4.1	4
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 3」のスコアによる評価	建物全体 3.0 住戸・宿泊 5.0	4	
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価			
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価			
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない

みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
	項目	評価内容	スコア	評価
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	

【その他】

先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
	電気ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)	エネルギー利用の高効率化を図っている
特に配慮した事項		